

表3-①. 手術・侵襲的検査における休薬期間の院内指針

薬効分類	一般名	分類	薬品名			消化器内視鏡手術における休薬期間 (高危険度の場合)		手術・侵襲的検査における休薬期間 (内視鏡以外)								
						病態リスク高	病態リスク低	出血リスク高	出血リスク中 (休薬を考慮する場合)	気管支鏡検査						
血小板凝集抑制剤 (抗血小板剤)	アスピリン	アスピリン	先発品	アスピリン	バファリン配合錠A330 (2022/3/31経過措置満了)	単剤の場合は休 薬なく施行しても 良い	3～5日前から休薬	7日前から休薬	継続	7日前から休薬						
			後発品	バイアスピリン バスサミンA81 ゼンアスピリン アスピリン腸溶錠	バファリンA81 ファモターA81 ニトギスA81 アスファネートA81 イスキアA330 (2022/3/31経過措置満了)											
	先発品		タケルダ配合錠 (アスピリン/ランソプラゾール)	キャブピリン配合錠 (アスピリン/タケキャブ)	それぞれの薬剤の休薬期間に準じる						それぞれの薬剤の休薬期間に準じる					
			後発品	コンブラピン配合錠(アスピリン/クロピドグレル) ロレアス配合錠(アスピリン/クロピドグレル)												
	アスピリン配合製剤	チエノピリジン誘導体	先発品	パナルジン		ASA、CLZへの 置換を考慮	5～7日前から休薬	14日前から休薬	遅くとも7日前から 休薬	7日前から休薬						
			後発品	チクロピジン	マイトジン (2022/3/31経過措置満了)				5日前から休薬							
	クロピドグレル		先発品	ブラビックス					5日前から休薬		3日前から休薬	5日前から休薬				
			後発品	クロピドグレル												
	プラスグレル	先発品	エフィエント		5日前から休薬	3日前から休薬	5日前から休薬									
		後発品	－													
	チカグレロル	先発品	ブリリンタ		5日前から休薬	3日前から休薬	5日前から休薬									
		後発品	－													
	シロスタゾール	その他の抗血 小板作用薬	先発品	ブレタール		単剤の場合は休 薬なく施行しても 良い	1日前から休薬	3日前から休薬	2日前から休薬	2日前から休薬						
			後発品	シロスタゾール ホルダゾール シロスレット	ズレトモール ヨートリズム シロシナミン											
	先発品		オバルモン	プロレナール	2日前から休薬						1日前から休薬	1～2日前から休薬	1日前から休薬			
	後発品		リマプロストアルファデクス													
	リマプロスト アルファデクス	先発品	アンプララグ		ASA、CLZへの 置換を考慮	1日前から休薬	2日前から休薬	1日前から休薬	1～2日前から休薬	1日前から休薬						
		後発品	サルボグレラート													
	サルボグレラート	先発品	ドルナー	プロサイリン							ASA、CLZへの 置換を考慮	1日前から休薬	2日前から休薬	1日前から休薬	1～2日前から休薬	1日前から休薬
		後発品	ベラサスLA(肺高血圧)	ケアロードLA(肺高血圧)												
ベラプロスト	先発品	ベラプロスト		ASA、CLZへの 置換を考慮	1日前から休薬	2日前から休薬	1日前から休薬	1～2日前から休薬	1日前から休薬							
	後発品	－														
抗凝固剤	ワルファリンカリウム	抗凝固薬	先発品	ワーファリン	ワルファリンK	PT-INRが治療域であれば継続	術前4日前に中止 血栓リスクが非常 に高い場合はヘパ リン置換開始			PT-INRが治療域 であれば継続	術前3日前に中止 血栓リスクが非常 に高い場合はヘパ リン置換開始					
			後発品	ワルファリンK(細粒)												
直接トロンピン 阻害剤	ダビガトラン エテキシラート		先発品	ブラザキサ		継続 (Cmaxを避ける)	当日のみ休薬	2～4日前から休薬 (Ccr ≥ 50) 4日前から休薬 (50 > Ccr ≥ 30)	1日前から休薬 (Ccr ≥ 50) 2日前から休薬 (50 > Ccr ≥ 30)	1日前から休薬						
			後発品	－				2日前から休薬	1日前から休薬	1日前から休薬						
第Xa因子阻害剤	先発品		エドキサパン		継続 (Cmaxを避ける)	当日のみ休薬	2日前から休薬	1日前から休薬	1日前から休薬							
	後発品		－													
	リパーロキサパン		先発品	イグザレルト							2日前から休薬	1日前から休薬	1日前から休薬			
			後発品	－												
アピキサパン	先発品		エリキユース		2日前から休薬	1日前から休薬	1日前から休薬									
	後発品		－													
高脂血症薬 (EPA・DHA製剤)	オメガ-3脂肪酸 エチル		先発品	ロトリガ		ASA、CLZへの 置換を考慮 (個々の症例に応じ て判断)	1日前から休薬	7～10日前から休薬	7日前から休薬							
			後発品	－												
閉塞性動脈硬化症 高脂血症薬 (EPA製剤)	イコサペント酸エチル		先発品	エバデール		ASA、CLZへの 置換を考慮 (個々の症例に応じ て判断)	1日前から休薬	7～10日前から休薬	7日前から休薬							
			後発品	イコサペント酸エチル エパロース	エバラ											
脳循環 代謝改善薬	イフェンプロジル		先発品	セロクラール		ASA、CLZへの 置換を考慮 (個々の症例に応じ て判断)	1日前から休薬	2～3日前から休薬	2日前から休薬							
			後発品	イフェンプロジル												
			イブジラスト	先発品	ケタス						2日前から休薬					
				後発品	－											
ニセルゴリン	先発品		サアミオン		2日前から休薬											
	後発品		ニセルゴリン													
冠血管拡張薬	ジビリダモール	先発品	ペルサンチン		ASA、CLZへの 置換を考慮 (個々の症例に応じ て判断)	1日前から休薬	1日前から休薬									
		後発品	ジビリダモール	ヨウリダモール												
		ジラゼブ	先発品	コメリアン					2日前から休薬							
			後発品	ジラゼブ												
トラビジル	先発品	ロコルナール		2日前から休薬												
	後発品	トラビジル														
	トリメタジジン	先発品	バスタレルF			2日前から休薬										
		後発品	－													
TXA2阻害作用の 気管支喘息薬	オザグレ	先発品	ドメナン		ASA、CLZへの 置換を考慮 (個々の症例に応じ て判断)	1～2日前から休薬										
		後発品	オザグレ													
中止および再開について			注:このガイドラインはあくまでも一般的、標準的なものであるため、個々の症例で休薬およびヘパリン置換を行うかについては、症例ごとの病状・病態の重症度を検討したうえで、担当医・主治医が最終的に判断するものとする。中等度出血リスク手技では、血栓性イベントのリスクを勘案して休薬期間を設定すること。			治療後は食事開始後再開。ただし出血例は除く。出血傾向がある場合は慎重に。										

女性ホルモン製剤

薬効分類		薬品名	一般名	休業期間	添付文書上の休業に関する記載
卵胞・黄体ホルモン配合剤	経口避妊剤 (低用量ピル)	アンジュ21錠/28錠	レボノルゲステレル エチニルエストラジオール	4週間前から休業 術後2週間 産後4週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
		トリキュラー21錠/28錠			
		ラベルフィーユ21錠/28錠			
		ファボワール錠21/28	デソゲステレル エチニルエストラジオール		
		マーベロン21/28			
		シンフェーズT28錠	ノルエチステロン エチニルエストラジオール		
	月経困難症	ジェミナー配合錠	レボノルゲステレル エチニルエストラジオール	4週間前から休業 術後2週間 産後4週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
		フリウエル配合錠LD/ULD	ノルエチステロン エチニルエストラジオール		
		ルナベル配合錠LD/ULD			
		ヤーズ配合錠	ドロスピレノン エチニルエストラジオール		
		ヤーズフレックス配合錠			
	閉経後骨粗鬆症	ウエルナラ配合錠	エストラジオール レボノルゲステレル	医師の指示	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態：体を動かせない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと 【慎重投与】 術前又は長期臥床状態の患者
		子宮内膜症等	ブラノパール配合錠		
	-		-		
	更年期症状		メノイデコンビパッチ		
	卵胞ホルモン製剤	ジュリナ	エストラジオール		
エストラーナテープ					
ディビゲル		エストリオール			
エストリール					
ホーリン					
ブレマリン		結合型エストロゲン			
黄体ホルモン製剤	ヒスロンH錠200mg ヒスロン錠5mg	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	医師の指示 (術後指示)		
エストロゲン受容体修飾薬 (閉経後骨粗鬆症)	ビビアント	バゼドキシフェン	医師の指示	【禁忌】 長期不動状態にある患者 (術後回復期、長期安静期等) 【慎重投与】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る前に本剤の投与を中止し、完全に歩行可能になるまでは投与を再開しないこと	
	エビスタ	ラロキシフェン	3日前から休業	【禁忌】 長期不動状態にある患者 (術後回復期、長期安静期等) 【慎重投与】 手術後1ヶ月以内の患者 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る3日前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能になるまでは投与を再開しないこと	
中止および再開について		◇女性ホルモン製剤には、卵胞ホルモン(エストロゲン)、黄体ホルモン製剤(プロゲステロン)製剤、卵胞・黄体ホルモン配合剤などがあり、 重大な副作用に血栓症 があります。 ◇低用量ピルをはじめとする卵胞・黄体ホルモン配合剤は、添付文書の「禁忌」に、「手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期安静状態の患者〔血液凝固能が亢進され心血管系の副作用の危険性が高くなることがある〕」と記載されています。 ◇休業期間に関しては、各薬剤の添付文書上の術前休業に関する記載を参考とした日数としています。 患者毎に血栓症のリスクを考慮して、妥当性のある休業の有無とその期間を決定してください。 ◇本一覧に記載されていない薬剤に関しては一般名を参照の上、休業の有無とその期間を決定してください。			

糖尿病薬(BG類、SGLT-2阻害薬)

周術期における糖尿病薬の休薬期間

薬効分類	薬品名	一般名	休薬期間	添付文書上の休薬に関する記載
BG類	メトグルコ	メトホルミン	2日前から休薬	【禁忌】 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者[インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。また、乳酸アシドーシスを起こしやすい。]
	グリコラン			
	ジベトス	ブホルミン		
	ジベトン			
SGLT-2阻害薬	カナグル	カナグリフロジン	3日前から休薬	【禁忌】 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者[糖尿病を有する患者ではインスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。] 【糖尿病学会からのRecommendation】 手術が予定されている場合には、術前3日前から休薬し、食事が十分摂取できるようになってから再開する。
	ジャディアンス	エンパグリフロジン		
	スーグラ	イプラグリフロジン		
	フォシーガ	ダパグリフロジン		
	デベルザ	トホグリフロジン		
	ルセフィ	ルセオグリフロジン		
	アプルウェイ(2022/3/31経過措置満了)	トホグリフロジン		

配合剤

薬効分類	薬品名	一般名	休薬期間
BG+TZD	メタクト	ピオグリタゾン/メトホルミン	2日前から休薬
BG+DPP-4	エクメット	ビルダグリプチン/メトホルミン	
	イニシンク	アログリプチン/メトホルミン	
	メアナ	アナグリプチン/メトホルミン	
DPP-4+SGLT-2	カナリア	テネリグリプチン/カナグリフロジン	3日前から休薬
	スージャヌ	シタグリプチン/イプラグリフロジン	
	トラディアンス	エンパグリフロジン/リナグリプチン	
中止および再開について	◇周術期には絶食、ストレスなどにより血糖値が乱れやすく、術前に血糖を速やかに管理するため、内服薬を避けて調整が容易なインスリン注射が主体となる。 ◇添付文書上では、すべて禁忌(重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者)に設定されている。 ◇本一覧に記載されていない薬剤に関しては一般名を参照の上、休薬の有無とその期間を決定してください。		